

総合計画審議会 会議経過要旨

会 議 名	第1回木津川市総合計画審議会		
日 時	平成29年8月29日（火） 午後2時～4時	場 所	本庁舎5階 全員協議会室
出席者	委 員 ■：出席 □：欠席	（公募委員） ■尾崎 忠教委員、□西村 正子委員、■森田 雄巳委員 （識見委員） □今里 佳奈子委員、■真山 達志委員 （委員） ■今西 勝美委員、■北島 宣委員、■久保 恭子委員、 ■小松 信夫委員、■中川 雅永委員、■西井 貴信委員、 ■福井 さなえ委員、■福井 康裕委員、■松本 耕考委員、 ■山本 勇人委員 その他出席者 株式会社地域未来研究所 田渕 誠一、貞松純子 庶 務 （事務局） 福島政策監、武田マチオモイ部長、奥田学研企画課長、 茅早課長補佐、藤木主任	
議 題	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委員紹介 4. 会長・副会長選出 5. 会長あいさつ 6. 諮問 7. 議事 （1）確認事項 ①木津川市総合計画審議会の運営について ②木津川市総合計画策定方針について （2）報告事項 ①木津川市総合計画の概要について （3）審議事項 ①市民・中学生アンケート調査（案）について （3）その他 ①次回審議会開催日程について 8. 閉会		

会議結果要旨

1. 開会

事務局から開会を宣言した。

2. 市長あいさつ

市長から、開会にあたり挨拶があった。

3. 委員紹介

各委員及び事務局から、自己紹介があった。

4. 会長・副会長選出

木津川市総合計画審議会条例(以下「条例」という。)第5条に基づき、次のとおり会長及び副会長を選出した。

会長：真山 達志委員 (同志社大学政策学部教授)

副会長：今里佳奈子委員 (龍谷大学政策学部教授)

5. 会長あいさつ

会長から、就任にあたり挨拶があった。

6. 諮問

条例第2条に基づき、市長より、真山会長に諮問を行った。

7. 議事

(1) 確認事項

①木津川市総合計画審議会の運営について

資料1、資料2、資料3に基づき、事務局から説明し、審議会の運営について確認した。

また、内規第5条第2項の規定により、今回の審議会の会議経過書の署名委員に尾崎委員を指名した。

②木津川市総合計画策定方針について

資料4に基づき、事務局から、木津川市総合計画策定方針(案)について説明し、確認した。

(2) 報告事項

①木津川市総合計画の概要について

参考資料に基づき、事務局から、木津川市の概況、第1次総合計画後期基本計画の概要について説明を行った。

	<p>(3) 審議事項</p> <p>①市民・中学生アンケート調査（案）について 資料5、資料6、資料7に基づき、アンケート調査について提案し、一部について事務局で微修正を行うことで承認された。</p> <p>(4) その他</p> <p>①次回審議会開催日程について 第2回審議会は、平成29年12月上旬に開催の予定。日程が決まり次第連絡する。</p> <p>8. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎会長</p> <p>○委員</p> <p>●事務局</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 市長あいさつ 平成19年の市発足後、平成21年に第1次総合計画を策定し、各地域が育んできた自然、歴史、文化の蓄積を尊重するとともに、新たな市としての速やかな一体性の確保を図りながら、地域バランスの取れた施策の充実など持続的な自律的な発展に向けたまちづくりを進めてきた。学研都市としての最先端の科学技術、自然、歴史、文化が調和する魅力あるまちづくりの成果として、人口減少社会の中で、市の人口は着実に増加しているところである。しかしながら、医療費等の扶助費の増加、社会インフラの老朽化、普通交付税合併算定替特例措置の終了の中、今後は健全財政に向けた取組みが必要になる。 市発足から10年は新たなまちとしての礎を築くことに主眼を置いてきたが、今後は持続可能なまちづくりとして体力づくりが何よりも必要不可欠であると考えている。中長期的まちづくりの視点から、総合的また計画的なまちづくりの指針となる重要な計画である第2次総合計画の策定を進めたい。 委員の皆様方には、総合計画の果たす役割をご賢察の上、それぞれの立場から、忌憚のないご意見を賜り、充実した計画となるようお願い申し上げます。</p> <p>3. 委員紹介 会議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 会長・副会長選出 会議結果要旨のとおり。</p>

5. 会長あいさつ

総合計画は、市として行うさまざまな分野の内容を含む計画であり、ともすれば総花的になるが、総合計画であるため、ある程度やむを得ない。一方で市のまちづくりの基本的考え方や理念、方針がきちんと謳われていることが重要な意味を持つので、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、中身のあるものとしたい。

6. 諮問

会議結果要旨のとおり。

7. 議事

(1) 確認事項

①木津川市総合計画審議会の運営について

会議結果要旨のとおり。

②木津川市総合計画策定方針について

会議結果要旨のとおり。

(2) 報告事項

①木津川市総合計画の概要について

事務局より、木津川市の概況、第1次総合計画後期基本計画の概要について、説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○2060年の将来推計人口7万2千人を、8万1千人に引き上げるということであるが、人が増えるということは、そこに人が集まり、人が住むということである。現在開発が進んでいる住宅も45年もすると老朽化するため、新しい住宅地が増えないと、流入人口は増加しないと考える。そのため、市街化調整区域を市街化区域に編入しないと開発区域が増えないが、行政として、そういった考えがあるのか。

市の人口増加は、開発が進んだことが大きな要因であると思われるので、取り組んできた施策や事業の成果を検証し、それを踏まえて第2次総合計画に反映する必要があるのではないかと。

また、京都府でも人口減少の中、生涯未婚率が上がっており、人口減少対策として婚活事業を展開している自治体もある。結婚が人口増加に直接結びつくかはわからないが、木津川市も現状把握の一環として生涯未婚率の数値を把握し、公表していただければ。

◎人口動態と施策の関係については、第2次総合計画の中でどう反映して計画を策定していくかという重要なポイントと考える。全国的な人口減少社会の中で、人口が増加傾向にある木津川市でも、いずれ減少に転じる時がくる。当面は人口増加への対応をしつつ、将来的な人口減少も見据えて計画をつくらなければならないことが重要な点である。都市計画も含めて長期的視点で計画をつくらなければならないだろう。

少子化との兼ね合いで、生涯未婚率のデータは次回提供できるのか。

●生涯未婚率の数値の出し方について担当課に確認し、次回報告を行う。
◎生涯未婚率に限らず、より詳しい人口動態について、資料をお願いします。少子化対策については、総合戦略を策定し、子育て支援に力を入れているので、それが上手く実を結べば、人口減少を緩やかにできることにつながるだろう。既存の計画や戦略を見据えながら、総合計画の中で少子化対策をどのように行うかを考えなければいけない。

日本の合計特殊出生率が1.44まで低下しているが、同じ先進国で少子化問題を克服したフランスの場合は、婚外子が55%を超えている。そういった意味では、結婚と子どもの数が完全に連動するののかも含めて、20年、30年先を視野に入れて、ライフスタイルや価値観の変化も予測しながら、計画をつくらないと、実態とあわない計画になる恐れがある。

◎市を訪れる観光客数は横ばいである。

この10年間の計画のポイントのひとつは、住民の平均年齢が年々上がっているところである。

市全体では人口も増加しているが、旧地区では子どもがいないという状況があるので、地域別といった視点も必要であろう。

人口が減少した場合、公共施設などをどう始末していくのかについても、この10年間で考えていかなければならないだろう。

◎市全体としては人口が増加しているが、加茂と山城は減少し始めており、地域別にみると全く違う議論が必要であり、計画の中でしっかりと考えていかなければならない重要な部分である。

公共施設に関しては、既に市内の公共施設の現状調査が終わっており、公共施設等総合管理計画に基づき、今後施設の仕分けを行っていく段階である。一方で、人口増加に伴いまだしばらくは公共施設が増える可能性もあるので、将来の活用や管理をどうするかについても考慮することが必要である。

市を訪れる観光客数は横ばいであるが、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、各地域で力を入れており、全国的に取り合いという状況である。観光は国の光を見るということなので、地域が光り輝いていか

ないと観光客は来ない。木津川市の魅力を高め、光り輝くことにより、見に来る価値がある、見てみたいと思うということにつながるので、計画に盛り込み、元気で魅力的なまちづくりをすることが、観光振興にもつながる。

- 都市計画審議会でもコンパクトシティ等の議論をされていると思うが、スケジュール的な関係や整合についてはどうするのか。
- 都市計画審議会の審議状況や、昨年に後期計画を策定した都市計画マスタープランとの整合については、次回資料を提示させていただく。
- ◎都市計画マスタープランは、ハード面でのまちづくりの基本であるので、内容について整合を取りながら、スケジュール的にも調整を取りながら進めていただきたい。

(3) 審議事項

②市民・中学生アンケート調査（案）について

事務局より、市民・中学生アンケート調査（案）について、資料をもとに説明した。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

- 第1次総合計画のアンケートの回収率は37%となっているが、市が行うアンケートの回収率は一般的にはこのような数字なのか。
- ◎無作為抽出、郵送方式の場合、回収率は30%台が一般的であると思う。
- 中学生アンケートで、「木津川市の市長になったとしたら」という設問があるが、市長では現実味がないので、「木津川市の職員になったら」とか、「木津川市役所で働いたら」というように聞いた方が、身近で、子どもたちも答えやすいのではないか。
また、後期基本計画の市民アンケートの結果をみると、「高齢者・障がい者の福祉援助」については、どちらとも言えないとの回答が57%と多くなっている。無作為抽出だと障がい者の割合が少なくなるので、勘案の仕方が難しい。子育ても含めて、高齢者福祉や障がい者福祉がおざなりにならないか懸念している。
- 「市の職員になったら」というご意見であるが、中学2年生が市職員の仕事等をどれだけ理解しているか不明である。市長は入学式にも出席しており、市長の仕事は漠然と理解していると思うので、このままでいいのではないか。
- 「市長になったら」というのは夢があつていいのではないかと思う。職員は現実過ぎて夢がないので、市長の方が適切ではないか。
- ◎市の職員は中学生にはイメージしにくいと思うので、市長がいいかどうか

かについては、みなさんの意見を参考に事務局で判断していただくことにしたい。

アンケートで市民全体の平均的な意見を把握した上で、高齢者や障がい者など特定の対象については、団体ヒアリングやこの審議会の中で代表の皆様のご意見で把握することとし、施策として何を行っていくかということを考えていくことになるだろう。

○山城地域の15市町村の中で、京都府の縮図と言われるように、木津川市は3つの地域それぞれ特性が違う。アンケートの中で、地域や年齢等の属性別のアンケート結果を分析し、それぞれに応じた対策を出していただきたい。

◎基礎データさえ整えば、分析はいくらでも追加できるので、リクエストがあれば出来るだけ対応していただきたい。

○現実として、保育園や幼稚園入園希望者が入れなかったと聞いているのにも関わらず、園児数は減少しているという統計結果であり、また、市では待機児童ゼロと言われている。希望しても入れない児童や、入れても希望したところに入れなかったケースもあるので、そういった数字も把握していただきたい。

●幼稚園や保育園の担当課に確認して、データを提供したい。

◎可能な限り希望に添えるような配置ができることが望ましいので、その前提として、現状の実態を把握した上で、できるだけ対策をしていく。アンケートについては、本日の意見を踏まえて、事務局で文言等一部微修正を行うということで、了解をいただくことにしたい。

(4) その他

①次回審議会開催日程について

会議結果要旨のとおり。

○観光資源が増えることはないが、市内には木津川が流れているので、こういった自然をどうするかについても計画の中に反映していただきたい。

◎環境というと地球環境が中心になるが、後期基本計画の中では、木津川をはじめとする自然環境があまりクローズアップされていないように感じるので、観光も含めて木津川を計画のひとつの方向性にすることもあり得るかもしれない。

8. 閉会

そ の 他
特 記 事 項

